



## 発刊を祝して

松江市長 松浦正敬

松江市ボランティア連絡協議会が創立30周年の節目を迎えられ、このたび『松江市ボランティア連絡協議会30周年記念誌』を発刊されましたことは誠にご同慶の至りであり、心からお祝いを申し上げます。

貴会が、地域社会の発展に寄与することを目的に設立された昭和58年当時は、わずか6団体が加盟する小さな組織でしたが、長い年月を経て、今や100余の団体やグループが加盟する大所帯へと成長を遂げられました。

また、当初は障がい者のためのイベントなど福祉活動が中心でしたが、今日では、健康・福祉の分野に加え環境・防災・文化・芸術・スポーツ・子どもや青少年の健全育成・国際交流など、広範多岐にわたる分野に活動の裾野を広げられ、更に平成24年度からは分野別委員会を加えた4専門委員会体制として組織強化を図られるなど、地域社会の発展に大きく貢献していただいております。

30年の長きにわたり、このような貴会の“進化”を支えてこられました役員・会員の皆様のご苦勞と功績に対しまして、改めて敬意と感謝の意を表する次第であります。

さて、松江市は、2度の市町村合併を経て人口が20万人を超え、平成24年4月から特例市に移行いたしました。名実ともに中海・宍道湖・大山圏域の中核都市としての役割を果たすべく各種施策を展開しているところでありますが、県内の各自治体と同様、少子・高齢化、人口減少などへの対応が喫緊の課題となっております。

このような状況を踏まえ、私は施政方針に「住みやすさ日本一の実現」を掲げました。これは、単に数値的な目標を追求するのではなく、誰もが故郷に愛着と誇りを持ちながら、住み慣れた地域でいつまでも安心・安全に暮らせるまちづくり、即ち、すべての市民が「松江に住んで良かった」と実感していただけるまちづくりを目指すものであります。

そのための手法として、例えば子育て環境の充実や観光振興、都市基盤の整備、定住・雇用対策の推進などがございますが、本市の場合、特に「共創」と「逆転の発想」という2つのアイテムが極めて重要な手法であると捉えております。

「共創」とは、行政のみならず様々な分野の人たちが、企画段階から知恵やアイデアを出し合いながら双方向の情報共有を図り、新たな価値を共に創り出していくこと、「逆転の発想」は、地域が抱える課題をプラス要素に変えていくポジティブ思考、つまり“弱点を特色につなげる”発想であります。

今年度は、消費税率引き上げ、国の社会保障制度改革をはじめ、待望久しい中国横断自動車道尾道松江線の全線開通などにより、松江市を取り巻く情勢が大きく変化していくことが予想されています。

このような中であって、本市ではこの2つのアイテムを駆使して「住みやすさ日本一」の具現化を目指してまいります。そのためには、皆様のようなボランティア団体の積極的なご参画と、地区社会福祉協議会や町内会・自治会、民生児童委員協議会などとの密接な連携が必要不可欠であることは言うまでもございません。

どうか、「住みやすさ日本一の実現」のため、今後とも長年の経験と実績を積まれた皆様のお力添えを賜りますようお願いいたします。

結びに、来るべき創立40周年に向けた貴会の益々のご発展と、関係者の皆様の更なるご健勝とご活躍をご祈念申し上げまして、30周年記念誌発刊にあたりましての祝辞とさせていただきます。